

平成24年度第1回ハタハタ資源対策協議会資料

表1 秋田県における漁獲可能量と漁獲実績の推移

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	54	63	85	89	104	170	143	84
8年	110	86	78	110	156	142	220	243	110
9年	180	148	82	180	285	158	360	433	120
10年	300	162	54	300	437	146	600	598	100
11年	400	142	36	600	579	97	1,000	721	72
12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,167	117
13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
15年	960	907	94	1,440	2,059	143	2,400	2,966	124
16年	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
17年	1,000	489	49	1,500	1,840	123	2,500	2,330	93
18年	800	944	118	1,200	1,641	137	2,000	2,584	129
19年	720	847	118	1,080	763	71	1,800	1,610	89
20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70

※ 平成9年以降は、沖合は管理漁期(9月～翌6月)、沿岸は漁期(11月～翌1月)の合計値（水産漁港課調べ）

◎H23年の配分枠に対する実績は、沖合58%、沿岸77%、全体で69%となった。

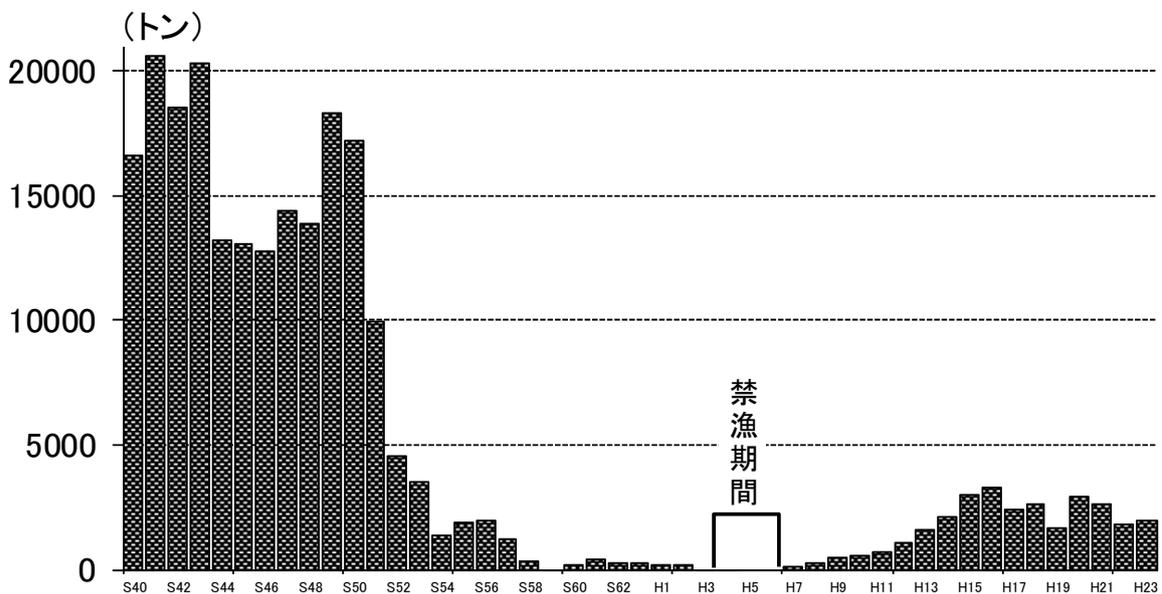


図1 秋田県におけるハタハタ漁獲量の推移

(1-12月漁獲量: H22年までは農林水産統計、H23年は水産漁港課調べ)

◎H23年の本県漁獲量は1,951トンで、前年に比べて119トン増加した。

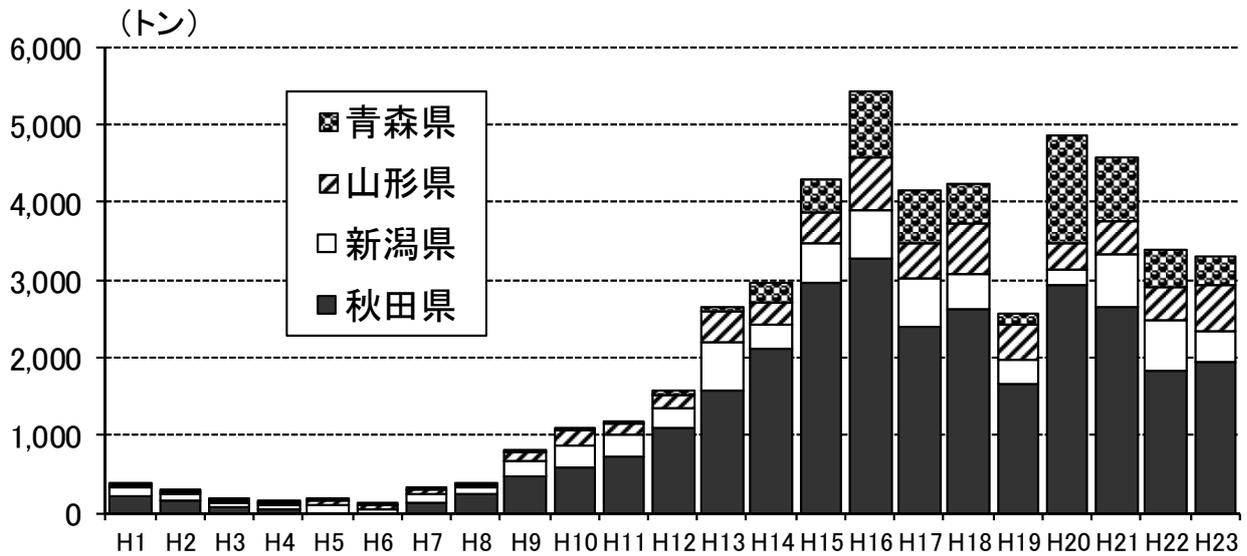


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移

- ◎H23年の4県漁獲量は3,287トンで、前年漁期より約100トン減少した。
- ◎このうち秋田県の割合は59%で、前年に比べ5.2ポイント増加した。
- ◎県別では秋田1,951トン(前年比107%)、青森359トン(73%)、山形604トン(148%)、新潟372トン(57%)で、青森と新潟で減少した。

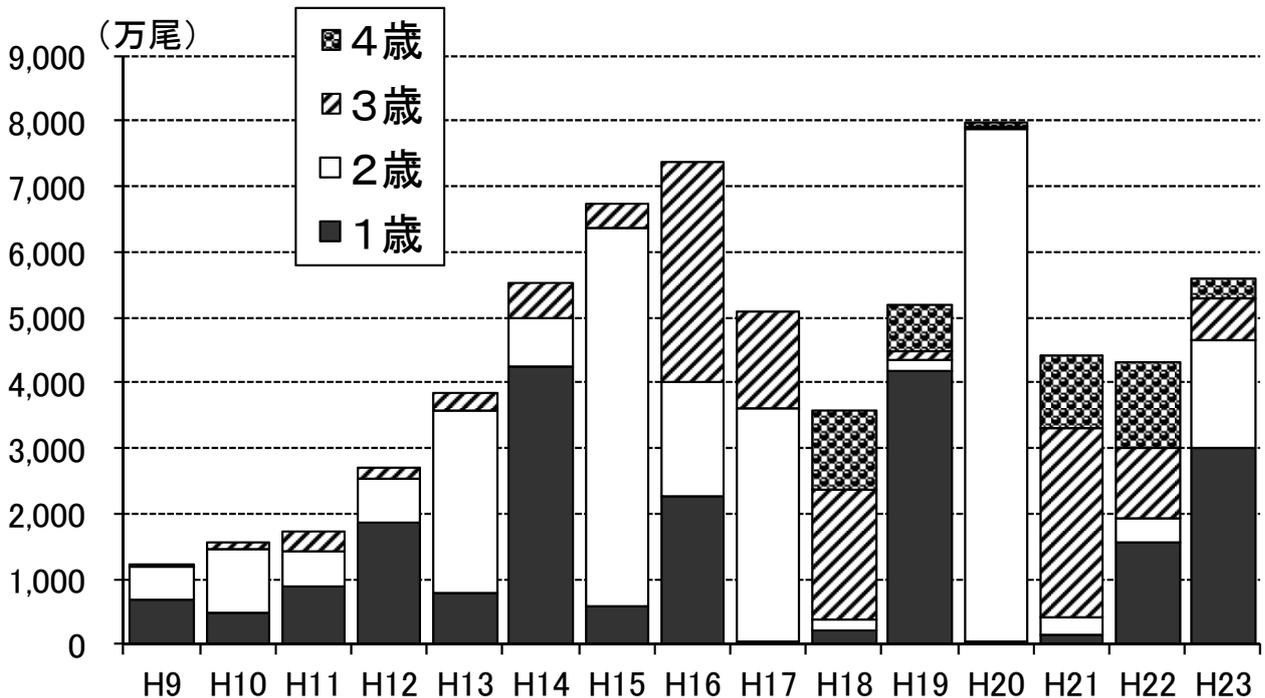


図3 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移

- ◎H23年漁期は、オス・メスともにH22年生まれ(1歳)からH19年生まれ(4歳)で構成され、若齢魚ほど個体数が多かった。

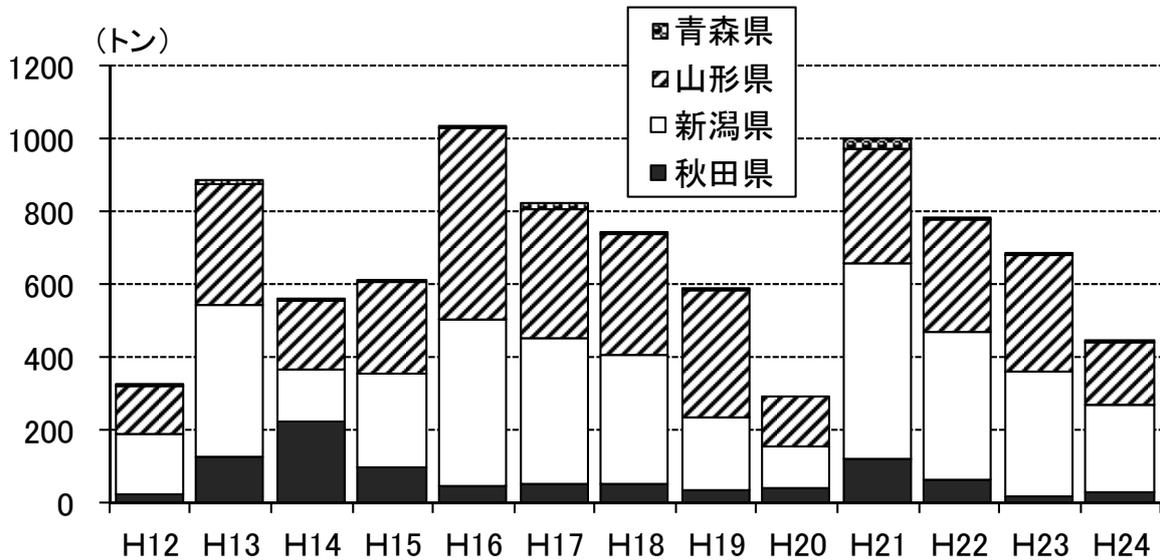


図4 1～6月における日本海北部4県底びき網漁獲量の推移

(水産振興センター調べ)

◎本年1～6月の日本海北部4県の漁獲量は446トンで、前年の65%に減少した。
 各県の漁獲量は、新潟238トン(前年比69%)、山形174トン(54%)、
 秋田31トン(172%)、青森2.8トン(1,870%)で、全体として大きく減少した。

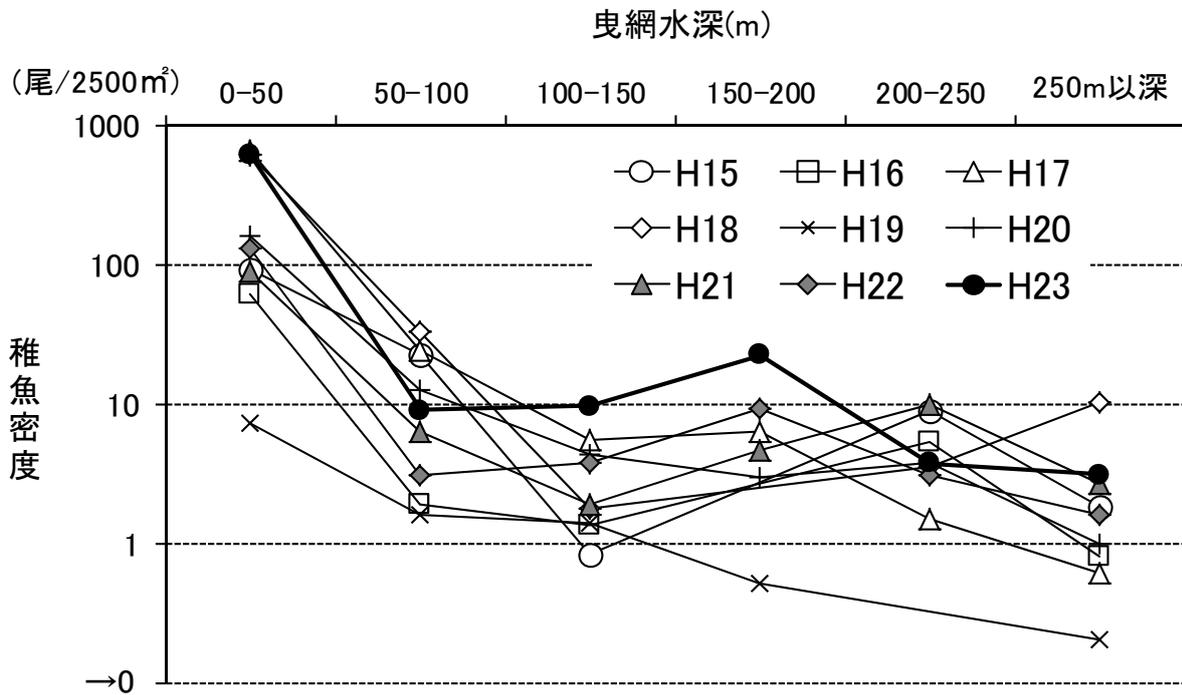


図5 4～8月におけるハタハタ仔稚魚の採集密度(第二千秋丸調査)

◎これまでの調査により、各年生まれのハタハタの資源量は、水深200m以深での稚魚密度を反映すると考えられる。

◎H23年生まれの稚魚密度は、資源量がかなり多かったH18年生まれより低く、H21年生まれと同程度の水準だった。

→ H23年生まれの資源水準は近年では中位程度と考えられる。

●底びき網での調査結果（成魚：11－12月）

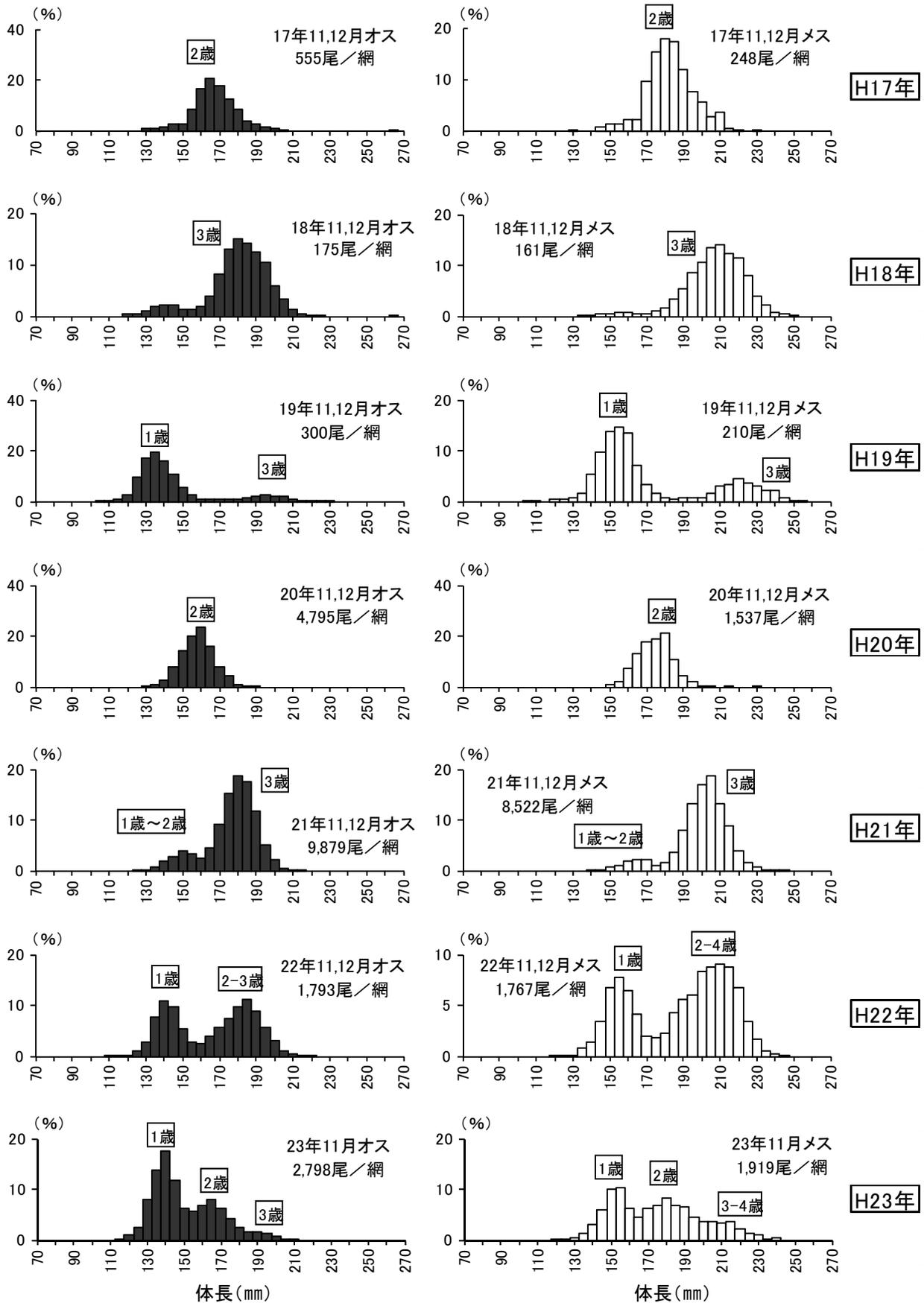


図6 11、12月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査)

【昨年の傾向】

◎オス、メスともH19年生まれ(4歳)からH22年生まれ(1歳)で構成され、若齢ほど個体数が多い傾向を示した。

●底びき網での調査結果(成魚:4-5月, 250m以浅)

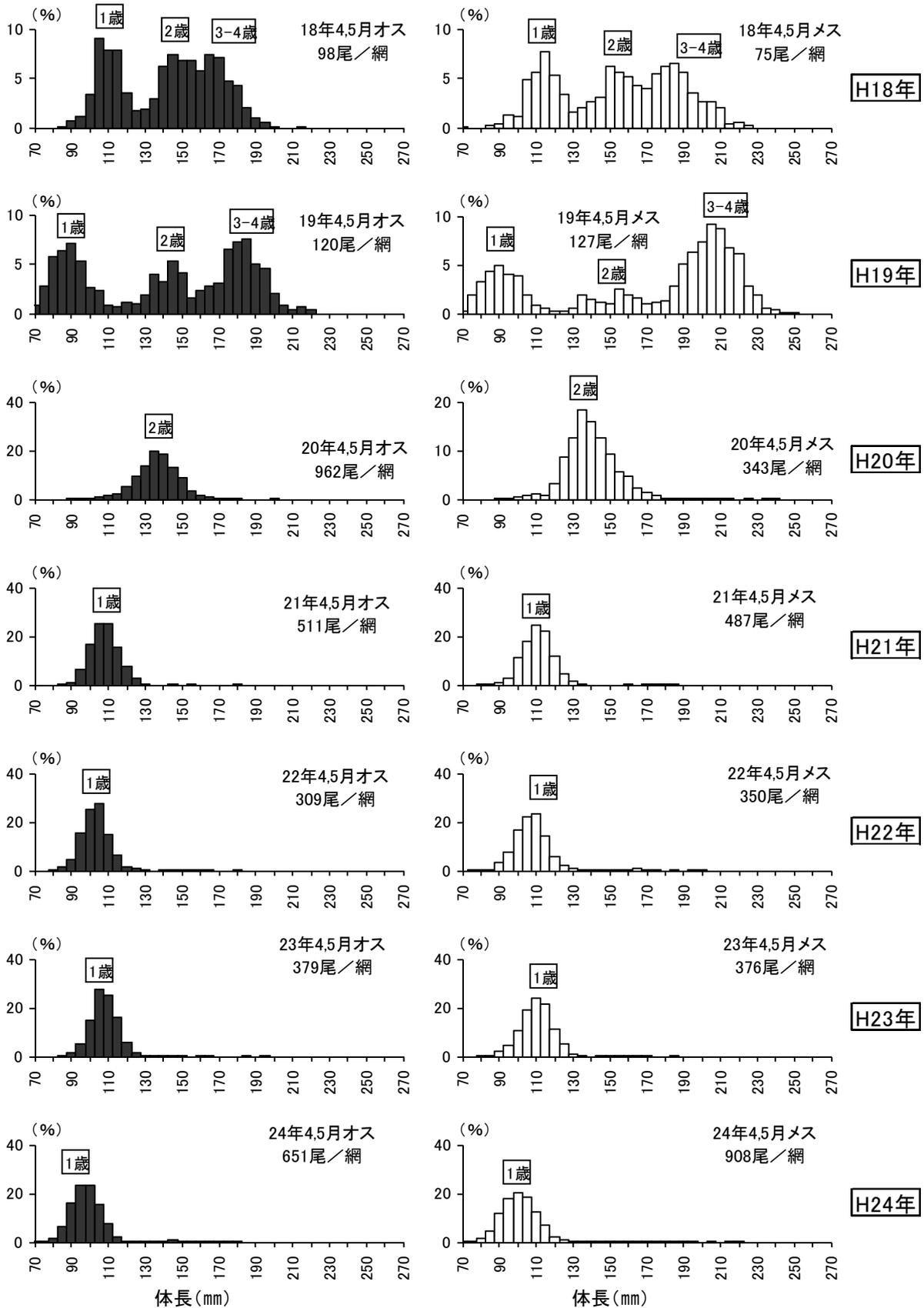


図7 4、5月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査. H20年以降は250m以浅)

【今年の傾向】

◎水深200m付近で大量に採捕されたH23生まれ(1歳)は、近年ではH18年生まれに次いで体長が小さかった。H18年生まれは資源豊度がかなり高かったことから、H23年級群の豊度は予想より高い可能性もある。

●底びき網での調査結果(成魚:4-5月, 250m以深)

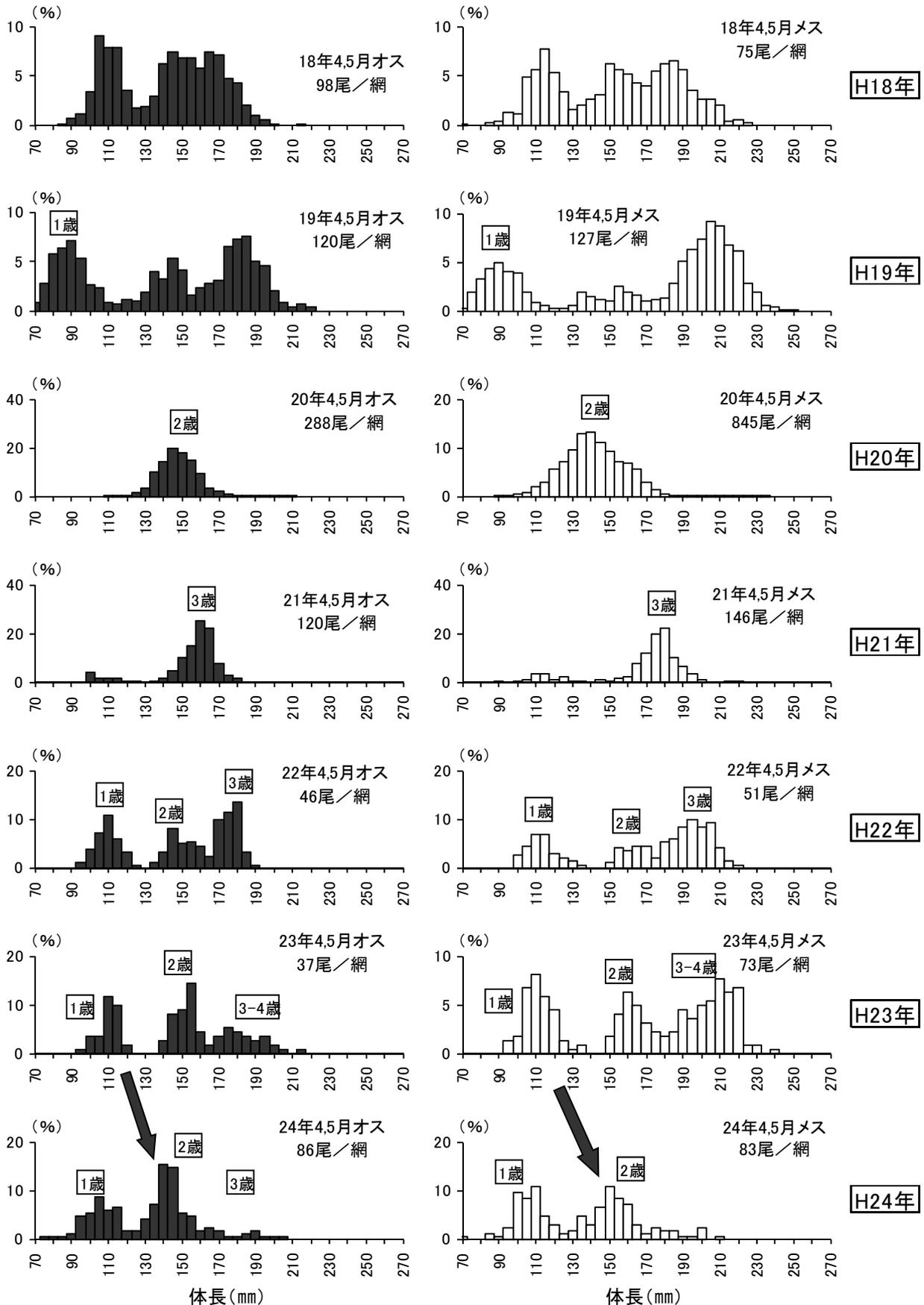


図8 4、5月におけるハタハタ体長組成(千秋丸底びき網調査. H20年以降は250m以深)

【今年の傾向】

◎水深250 m以深では、H22年生まれ(2歳)およびH23年生まれ(1歳)が多かった。
3歳以上の割合は低かった。

● 調査船での調査結果（成魚：9～10月）

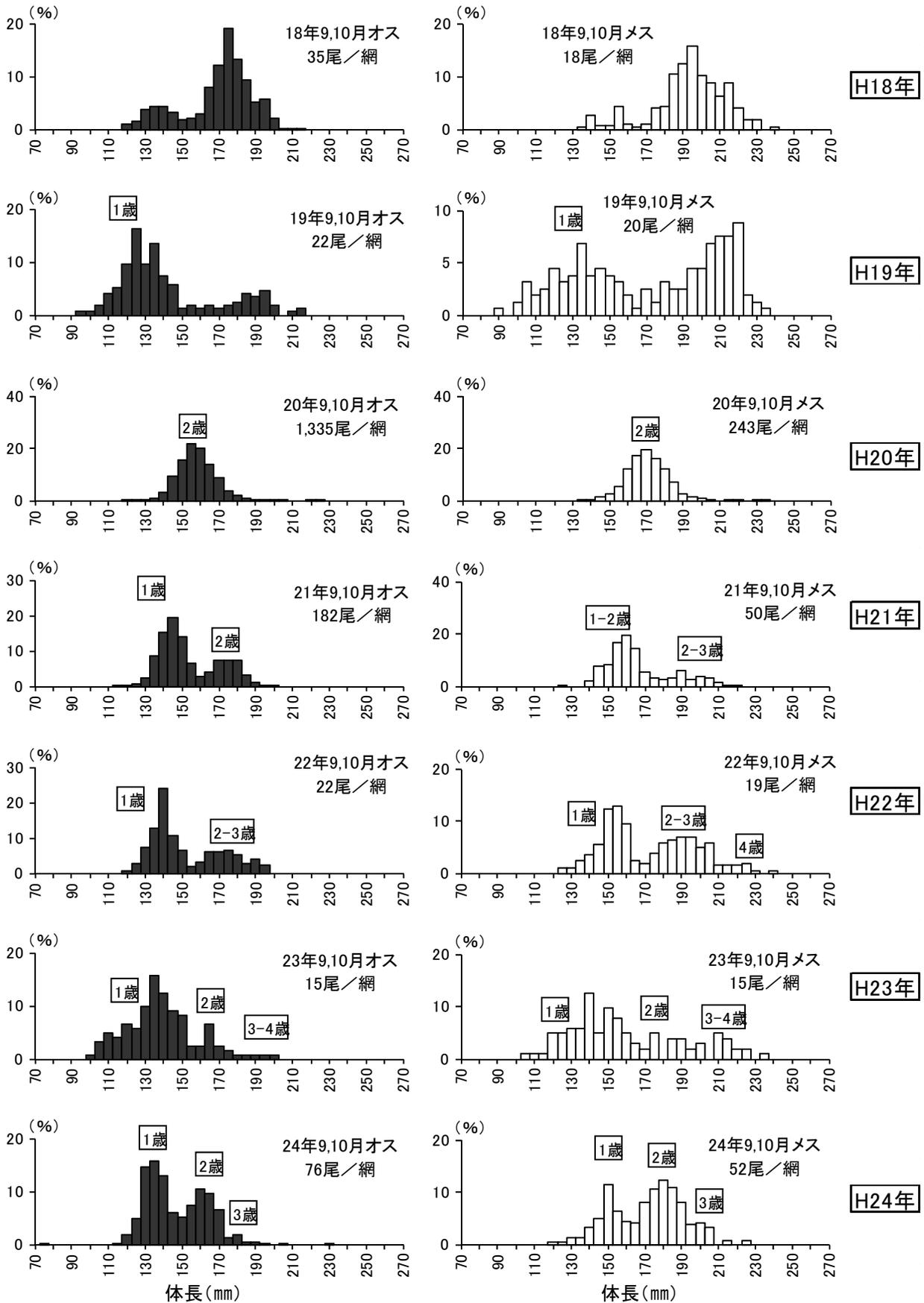


図9 9、10月におけるハタハタ体長組成（H23年まで千秋丸、H24年は用船の底びき網調査）

【今年の傾向】

◎オス、メスともH22、23年生まれ（1、2歳）が中心だが、H21年生まれ（3歳）も認められる。4～5月の傾向から今後、2歳以上の割合が高まると考えられる。

H24年漁期のハタハタ漁獲対象資源量

- ◎ 2歳の割合が高く、1歳も比較的多い可能性が高い。
- 今漁期の資源は、中型が主体であるが、小型も比較的多く混じると推測される。

- ◎ 解析の結果、秋田県の漁獲対象資源尾数は 1億3,380万尾、資源量は約 6,800 トン と推定した。

〔参考〕

本県沿岸における年齢別漁獲対象資源尾数

1歳	5,911万尾
2歳	7,213万尾
3、4歳	255万尾
合計	1億3,380万尾

【補足資料】

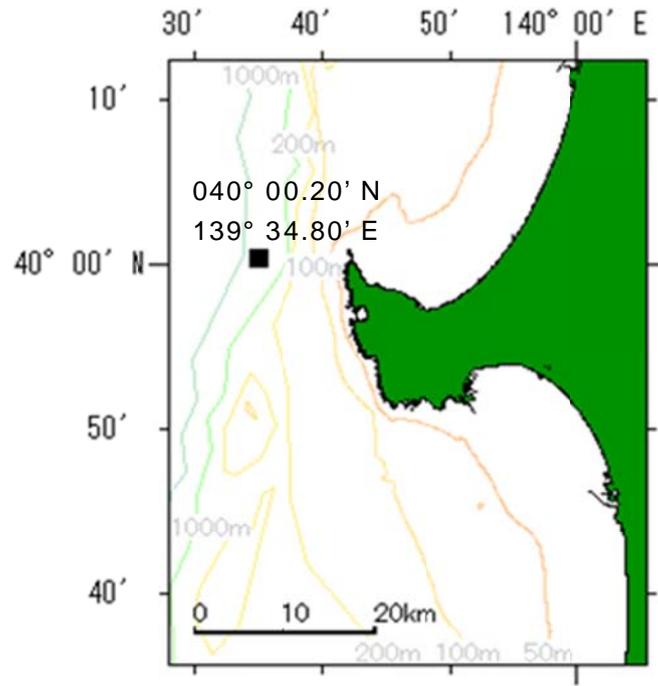


図1 観測地点

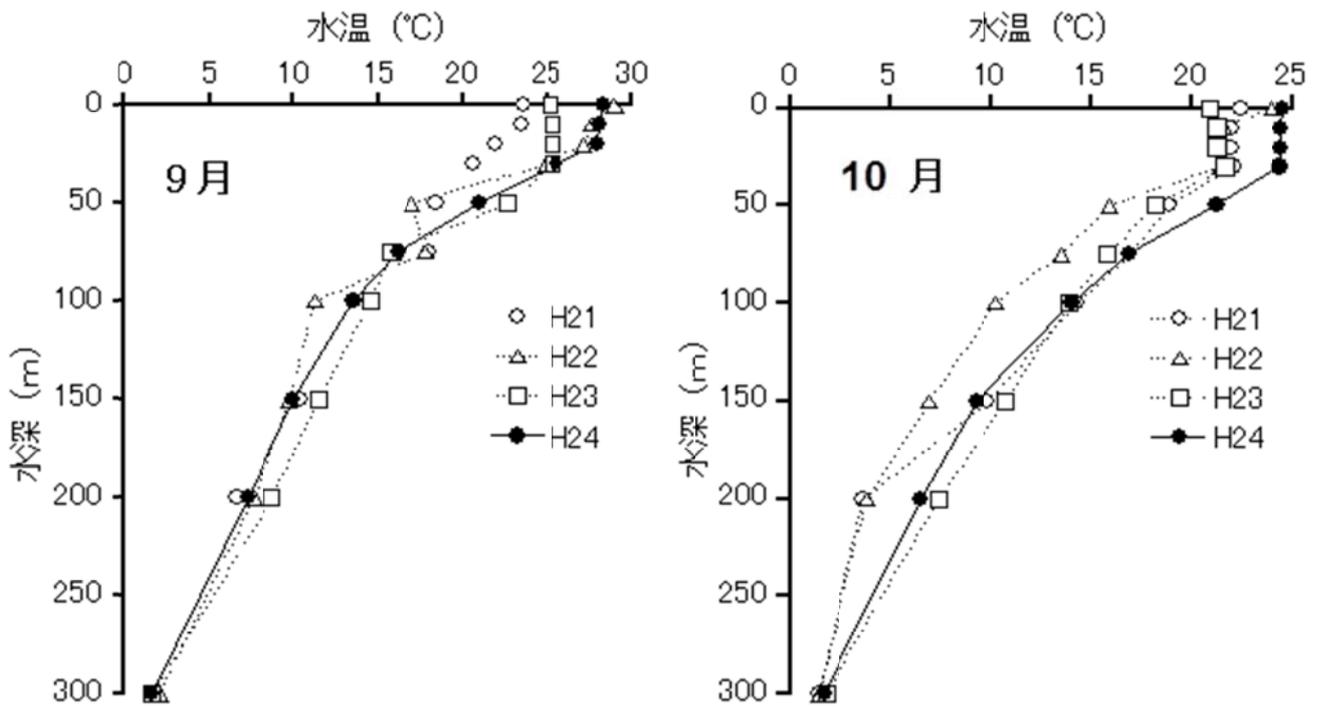


図2 水温の観測結果

- ・ 海洋観測による定点 St. 1（ $40^{\circ} 0.20' N$ 、 $139^{\circ} 34.80' E$ ）の水温は、次のとおりである。
- ・ 9月の水温は、表層付近の水深20mまではH22年同様かなり高め状況にあったが、水深50m以深では他の年との間で差は認められなかった。
- ・ 10月の表層付近の水温は引き続き高い状況にあるが、水深75m以深では特に高い状況にはない。